

明 細 書

伸縮性不織布

技術分野

[0001] 本発明は、スパンボンド法によって得られる不織布に関するものである。

背景技術

[0002] 従来、表皮材としては、ニードル不織布が多用されている。しかし、ニードル不織布は薄いものが出来ない。

そこで薄い不織布は、スパンボンド法によって提供されている（例えば特許文献1参照）。

[0003] 特許文献1：特開2002-105832号公報

発明の開示

発明が解決しようとする課題

[0004] しかし、上記スパンボンド法によって得られる不織布は縦横の伸びに乏しく、該不織布を表皮材として基材と接着して成形した場合、得られる成形物の深絞り部分に皺や亀裂が生ずるという問題がある。

課題を解決するための手段

[0005] 本発明は、上記課題を解決するための手段として、スパンボンド法によって製造され合成樹脂が含浸されている不織布にニードルパンチによって多孔を設けた伸縮性不織布を提供する。

該伸縮性不織布には合成樹脂が含浸されていることが望ましく、該合成樹脂は熱硬化性樹脂であることが望ましい。

また本発明は、伸縮性不織布を表皮材として基材表面に接着し所定形状に形成した内装材を提供する。

発明の効果

[0006] ニードルパンチによる多孔により不織布の縦横の伸びが改良される。従って、本発明の伸縮性不織布を基材と接着して成形しても深絞り部分に皺や亀裂が発生しない。

発明を実施するための最良の形態

請求の範囲

- 〔1〕（補正後）スパンボンド法によって製造され合成樹脂が含浸されている不織布にニードルパンチによって多孔を設けたことを特徴とする伸縮性不織布。
- 〔2〕（削除）
- 〔3〕（補正後）該合成樹脂は熱硬化性樹脂である請求項1に記載の伸縮性不織布。
- 〔4〕（補正後）請求項1または3に記載の不織布を表皮材として基材表面に接着し所定形状に形成したことを特徴とする内装材。